

家族力大賞'11

—作品集—

く 家族や地域の

「きずな」

を強めよう

社会福祉法人

東京都社会福祉協議会

大きな家族みたい！みんなの実家

藤田 房江

「事故です！今救急車で運ばれたので、すぐこちらに来てください！」

「みんなの実家@町屋」のスタッフから、私の携帯電話に用件のみの緊急連絡が入りました。

事故？利用者の赤ちゃん？お母さん？はたまたボランティアさんが具合悪くなった？はやる心を押さえながら、自転車を飛ばして現場に向かいました。そして、現場に到着した私は、家主であるチイ子さんが倒れ、救急車で運ばれたことを知ります。

発見者は、スタッフのひとり。開所時間前の11時ごろ、入口の鍵を開けようとしたら、ドアチェーンがかかっている。おかしい。毎朝、チイ子さんが開けてくれるはずの雨戸が閉まっている。大声で呼んでも返事がない。家に電話を入れても、応答なし。

これはタダゴトではない。チェーンロックとドアのわずかな隙間に手を入れ、やつとの思いで開錠。その後、住まいである二階にあわてて駆け上がると、ベッドの横であおむけに倒れているチイ子さんの姿を発見したのです。

いくら呼びかけても意識朦朧としている様子にスタッフは、チイ子さんをよく知る社会福祉協議会の担当者に電話連絡。すぐ救急車を呼ぶこと、冷蔵庫の赤い筒の中の、常備薬や緊急連絡先を記載したものを持って病院に同行すること、という指示を受け、救急車が走り出した直後の電話だったのです。

そんな経過を知った後、みんなの実家の二階の様子を見に行くと、ベッドのそばに扇風機のふたがいびつになって転がり、その上に倒れ込んだ形跡が残されていました。9月初めの残暑厳しい前日は熱帯夜。二階のどの窓にも網戸は一枚もなし。きつと、窓を閉めたままクーラーもつけないで、扇風機で涼をとりながら寝ていたのだろうと推測されました。

その後、遠方に住む娘さんが病院に駆け付けるまで付き添っていたスタッフが、戻ってきた時には、夕方になっていました。病院の先生によると、容態は今夜が山場だということ。区役所の担当者や社会福祉協議会、地域包括支援センターなどと連絡を取り合いなが

ら、安否を気遣う一日となりました。

そして翌日。熱中症と判明したチイ子さんは入院先の病院で意識を取り戻し、夕方には「おなかですいた!」と笑いがでるほど、元気を取り戻すことが出来たのです。

こんな事件がおこった「みんなの実家@町屋」とは、ボランティア団体が運営する荒川区の子育て交流サロンです。国の子育て支援拠点事業として、子育て中の親子が気軽に立ち寄り、赤ちゃんを預けたり、情報交換できる場所として位置づけられています。区内にある首都大学東京と地域住民が連携し、産後直後の家庭を訪問し、育児・家事のお手伝いをするボランティア団体を立ち上げたのが7年前。その活動の中で、孤立しがちな親子が気軽に集まれる場所の必要性を感じ、物件を物色していたのですが、なかなか適当なものが見つかりません。

そんな折、社会福祉協議会から、高齢者の一人住まいのチイ子さん宅の二階建て家屋の、一階部分を貸してくれそうという情報を頂きました。荒川区も地域ボランティアによるこの試みを、財政的にも援助できるよう奔走してくださり、とんとん拍子に話が進み、「みんなの実家@町屋」が3年前に誕生したのです。

家主であるチイ子さんは、その頃、ご主人を亡くして一人暮らしとなり、ふさぎ込みがちな様子でした。それが賑やかな赤ちゃんの声が聞こえ、人の気配の戻った家となったことにより、徐々に元気を取り戻してきたのです。ご自身も別のボランティア活動にも参加するようになりました。私たちスタッフや訪れる親子連れとも気軽に声を掛け合い、見学者からは「ほんとうの親子みたいですね」と評されるような、親しいお付き合いが生まれ、利用する親子連れも増えてきました。

私たちの団体Ⅱ「35（産後）サポート」という名前は、子育て家族を地域のネットワークでサポートしようという造語です。ご近所付き合いの希薄になってしまった昨今、地域の子育て力を取り戻そうと発足しました。首都大学東京で学ぶ学生ボランティアにとっては生きた学びの場となり、地域ボランティアにとっての生きがいにもなっています。この子育て交流サロンをオープンする話には、娘さんからも「母の安否確認にもなるので大歓迎です！」と応援されていたのですが、そのとおりになってしまいました。

このチイ子さん事件は、「みんなの実家」のような場所が、地域の一人暮らしの高齢者のためにも、有効に機能できるということを教えてくださいました。今後退院して家に戻って

きたら、「毎日、二階にあがって様子を確認しよう」「安否確認メールを毎日、娘さんに送れないか」など、一人暮らしの高齢者を見守るにはどうしたらいいかと思いを巡らせていきます。

ともあれ、命の恩人！とチイ子さんに感謝されることになった「みんなの実家@町屋」。赤ちゃんから高齢者まで多世代にわたる地域の人々が集う、大きな家族みたいな小さなみんなの実家。立派な施設ではないけど、どこかほっと出来る、知り合いができる、みんなで助け合える。こんな場所が、町のあちこちに出来たらどんなに素敵なことでしょう。

これからも、ボランティアの皆さんに支えられながら、無理せず、楽しく、有意義に、この小さな取り組みを更に進化させていけたらと思うのです。